

《主催者あいさつ》

三重県議会議長 藤田 正美



皆さん、明けましておめでとうございます。ただいまご紹介をいただきました、三重県議会議長の藤田正美でございます。開催に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は、住民自治セミナーを開催いたしましたところ、県内各地の市町議会議員の先生方、自治体関係者の皆さん方、そして企業の皆さん方、住民の皆さん方がこのように多数ご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。心からお礼を申し上げる次第でございます。ありがとうございます。

本日、講演をいただく桜内先生には、公私、何かとお忙しい中、三重県にお越しいただきまして、心から御礼と感謝を申し上げる次第でございます。

今日お集まりの皆さん方は、それぞれの立場でこの地域の発展のためにご尽力をいただいております。心から感謝を申し上げる次第でございます。

皆さんご承知のように、2000年4月に地方分権一括法が施行されました。我々この地域は、自己責任、自己決定で自ら地域を経営していく時代、従来の官治集権から自治分権の社会に大きくかじを切りました。ぜひこのような大きな改革の時代に、皆さん方と一緒に連携、協力して、さまざまな地域の課題に直面しているこの地域社会に風穴をあける、そして未来を切り開いていく、そういうことをしていかなければいけないと考えております。

三重県議会は、昨年12月に、地方分権時代における議会の役割と責任を住民の皆さん方にお示しをいたしました。これは我々が、地域社会、またこの三重県を発展していくために、そういうために県民の皆さん方にお約束をした基本条例でございます。そして、12月26日に施行させていただきました。我々三重県議会は、自らが律して、そして自らがその役割と責任を条例で制定して、そして遵法に基づいて、それを遵守していくことがこれから求められております。また、基本条例の中には、三重県議会は県民自治、住民自治、そういう観点を持って取り組んでいるということを謳っております。

我々は、住民自治の実現のために、今日は一つの取り組みとして、このようなセミナーをさせていただいたところでございます。議会議員の皆さん方、そして住民の皆さん方と本当に協力して、地域社会の課題に対して一緒になって取り組んでいく、そのためにも皆さん方と情報の共有の場を設けて、共に歩んでいこうという思いで、今日行わせていただきました。

今日のテーマは財政ということで、大変、県民の皆さん方には分かりづらい、なじみがないというものをあえて取り上げさせていただきました。住民の財政を取り上げましたが、財政は少なくとも行政の会計ではなく、住民の会計であります。住民の共同の財布であります。また、住民の生活を守るために行うわけであります。

地方議会は、国の議院内閣制と違って、首長も議員も直接選挙で選ばれる二元代表制でございます。私は、国のように地方議会は与党、野党という言葉があってはならないと思っております。そういう意味では、住民の代表である議会は、首長や行政を住民の立場で是々非々でチェックしていくことが求められております。

しかし、夕張市の例にもありますように、住民の代表である議会が、ああいう破綻に至るまで何をしたのか、何もしてこなかったのかということも大きな問題であります。また、住民は、議会の議決をすることによって、決定することによって予算や事業を承認したことになるわけであります。結果としては、負担増や公共サービスの削減、そういうものにしわ寄せが行われるということであります。この夕張市の事例は、他人事ではなくて、この教訓はいろんなことを提示していただいているのではないかと私は考えております。

もう1点、我々、県民、住民というのは、単なるサービスの受け手ではなく、顧客ではなく、所有者であるという観点がこれから重要ではないかと思っております。まさに議会は所有者の代表であります。住民はこれから、自らが自分たちでその自治を治めていく、そういう住民自治を実現していく上においても、財政の民主主義、そういう熟度を高めていくことが、大変、これから重要になってくると考えております。

どうかそういう意味でも、今日は財政という問題を取り上げさせていただきましたが、皆さん方とともに情報を共有させていただき、実りある議論にさせていただきますことを心からお願い申し上げますとともに、このように多数の皆さん方がご参加をいただきましたことに心からお礼を申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。本当に今日はありがとうございます。